

PRESS RELEASE

2018年10月24日（水）
株式会社 唐沢農機サービス

唐沢農機サービス、国内生産量日本一を誇る 「長野県東御市のくるみ」の認知拡大として クラウドファンディングを開始

株式会社唐沢農機サービス（所在地：長野県東御市、代表取締役：唐澤健之）では、日本最大級のクラウドファンディングサービス「Makuake（マクアケ）」にて長野県東御市産くるみの認知拡大としてクラウドファンディングを開始。



【地元農家さんが丹精込めて作った農産物を、日本に広めたい】

唐沢農機サービスでは、東信州産の農産物を広くPRしたいと思い、日本最大級のクラウドファンディングサービス「Makuake（マクアケ）」を利用し、クラウドファンディングに挑戦している。「長野県産の美味しい果物」を多くの人に知って体験してもらいたいという思いは「世界をつなぎ、アタラシイを創る」をビジョンに掲げる「Makuake（マクアケ）」と整合している。クラウドファンディングを通じて“とうみくるみ”の苗木の育成振興を計画。
(<https://www.makuake.com/project/toumikuromi2/>)

クラウドファンディングを育成振興の資金とし、植樹活動に力を入れる。現在は、くるみの苗木の順番待ちで定植できない状況。今年度に定植する予定であり、数量は30本～40本程度の見込み。定植から数年後になるが、収穫量は現在当社総収量の10倍ぐらいは見込める予定。時間はかかるが、より多くの人に国産くるみを届け、「国産殻付きくるみを割って味わう」という機会創出が出来るよう、支援を募っている。

【関東へ美味しい国産くるみを届けたい！】

日本のくるみ市場は、輸入くるみが圧倒的に多く41,366t。国産くるみは171tで、そのうちの130tが長野県であり、国内生産の78%が生産されている。しかし、市場全体に対して需給量が少ない長野県東御市産のくるみは、大きな市場に殆ど出回らない。そのため、「殻付きのくるみを味わう」という文化の広がりには狭い。また、東御市産の優れたくるみの国内生産数量が伸びない理由は2点ある。

◆くるみの樹木数が増えない

くるみの苗木は種実が収穫できる大きさまで生育するのに6年必要。栽培振興を行なっているが、「接ぎ木」技術を持つ技術者の高齢化が進み、高い技術を持った方が少なくなっており、優良な苗木の購入は、予約待ちで3~4年かかる状況。増殖させるのに最低でも10年かかってしまう。

◆くるみは【反収】が他の果実に比べて低い

くるみを生育するよりも他の果実を生育させた方が反収がとても高い。例えば、くるみ畑1反（約10アール、300坪）の反収に比べて葡萄の反収は約2倍。担い手の農家さんも増えない状況である。

さらに、昨今の“ナッツブーム、スーパーフードブーム”が後押しとなり、「食べてみたい！」という声が多数あり、需要が増えても樹木が増えないため、手にする機会を増やすことができない状況。



【東信州産の農作物をIT技術を駆使して配信、PR】



唐沢農機サービスではクラウドファンディングへの挑戦は、実は4回目。今夏には「東信州産：生プルーン果実」をクローズアップ。「プルーン」というと「ドライフルーツ」を目にすることは多いが、生の果実の状態で味わう機会は、長野県外では非常に少ない。また、品種が十数種あることも知られていない。

「美味しいけれど、世の中に知れ渡っていない」という東信州産の農作物を多くの方に知ってもらう手段として、クラウドファンディングの他にもECサイト運営およびSNS配信を行い、IT技術の活用促進を取り入れている。

【本件の問合せ先】

株式会社唐沢農機サービス

住所：長野県東御市滋野乙3012-1

担当：久保田

電話：0268-62-5262

メールアドレス：info@karasawanouki.co.jp

【株式会社唐沢農機サービスについて】

商号：株式会社唐沢農機サービス

代表取締役社長：唐澤 健之

本社住所：〒389-0512 長野県東御市滋野乙3012-1

事業内容：新品機販売・農業機械修理・農業機械再生・コイン精米機運営

インターネット事業（WEBコンサルティング、WEBショップ運営）

農産物生産・農産物販売・輸出事業

ウェブサイト：<https://www.karasawanouki.co.jp/>

以 上